

## 巻頭言

# 留学生センターの4年間

末 松 良 一

塚越規弘先生のあとを受けて、2001年4月からセンター長を務めさせていただきました。2005年4月に次期センター長の江崎光男教授に引き継いでいただくまでの4年間、貴重な経験をさせていただきました。

私は、30年間以上、本学工学部・工学研究科に籍を置き、工学分野の教職員や学生だけと付き合いまわりました。そんな私が、留学生センターへ来て、日本語・日本文化、教育交流、短期交換留学などさまざまな分野の先生方と議論し、率直な意見交換を行うことができたことは得がたい経験となりました。

着任早々の2001年6月、全国留学生センター長・留学課長会議が名古屋大学で開催され、当番校として進行役を務めることになって、大学が抱える留学生問題・国際交流問題などの概略を知ることができたのでした。それから4年間、名古屋大学の留学生センターは、独立行政法人化など新たな課題を抱えているのが現状です。私がセンター長を務めた留学生センターの出来事を振り返って思い付くままに記させていただきます。

この4年間は、センターの教員がかつてないほど大きく異動した期間でした。日本語の藤原先生、教育交流の三宅先生が定年前に大学を去り、許斐ナタリー先生がAC21推進室へ移り、メディア部門のハリソン先生に続いて大野先生が他大学へ移られました。それぞれの夢、人生目標に基づいての決断で惜しみつつも受け入れなくてはなりません。その度に、センターの先生方と相談し、センターの将来を真剣に考え教員公募要領案を検討しました。幸運なことに、若くて意欲的で優秀な人材を迎えることができました。日本語の李先生、NUPACE部門の筆内先生、教育交流部門の堀江先生、そしてメディア部門の石崎先生と佐藤先生(2005年6月着任)を迎えることができたのです。4年間でセンター教員の3分の1が入れ替わるという変化を乗り越えることができたのもセンターの皆様のお陰だと感謝しております。

留学生センター長の役目として、各期の留学生に対する歓迎送迎会や開講式・修了式等での挨拶がありま

すが、式に出席して大きな充実感をいつも覚えるのは、日本語研修コース及び日本語・日本文化研修コースの修了式でした。数十人の修了留学生が上手な日本語で、日本語の先生方への感謝、名大での生活の楽しさ、多くの忘れがたい友達ができたと話を話し、別れを惜しむのを聞くたびに、この修了生たちは、きっと世界平和と日本の国際交流に貢献してくれるという喜びを覚えるのでした。同じ思いを、NUPACE留学生のサマーパーティやウインターパーティにおいても経験させていただきました。同時に、日本語研修コースやNUPACEプログラムの実行には、効率的な運営とは無縁な、多くの教職員の多大な労力が費やされていることも実感いたしました。

留学生受入れ基本方針が打ち出され、全学組織である留学生相談室が2004年1月に留学生センターの松浦助教授(2004年7月教授昇任)を室長として発足しました。各部局に配置された留学生担当講師の先生方との連携協力によってすべての留学生に平等な相談環境を整えるという設置趣旨にはまだまだ多難な現状ですが、新しい教員を迎えることも決まり、関係各位の努力により徐々に整備されていくことを祈っております。

名古屋大学の国際交流のあり方についての議論もこの4年間、数多くの委員会で多大な時間を要して検討されました。国際交流機構(仮称)の組織化についての2年間以上の議論の末、文科省の国際交流戦略統括本部構想のプロジェクト募集への名古屋大学からの提案として、国際企画室を中心とした全学組織との連携協力を目指す国際交流推進本部が打ち出されましたが、関係各位の努力が報いられて名大からの提案は採択されたと聞きました。限られた資金を有効利用して、真に名古屋大学の国際交流を推進する組織に育つことを願っております。

独立行政法人化は、留学生センターにも大きな影響を与えつつあるといえます。従来は細かい費目ごとに文科省から大学へ来ていた予算が、運営費交付金というひとくくりでまとめられ、それを何に当てるかは各

大学の裁量に任されるようになったのです。旅費や人件費に当てる自由度は増加しましたが、非常勤講師費用などが削減の対象となる恐れが生じてしまいました。教職員や学生がほとんど従来そのまま、独立行政法人となったことに戸惑いを抱くことも多いと思いますが、その変化を端的に言えば、独立行政法人化した組織は、必ず外部からの定期的な評価を伴うことになったといえます。中期計画・中期目標の設定と実行は、その具体化です。従来は、各自・各組織が正しい

と判断する行動をやりっぱなしでもよかったのですが、第三者による判断・評価のための説明と証拠の提出が義務付けられるという時勢になったと解釈されま

ず。  
このセンター紀要は、2004年度のセンターの教職員による活動の内容と成果をまとめたものです。本書が、学内外の皆様の名古屋大学留学生センターに対するご指導・ご協力の一助となること願っております。

2005年5月